

船井情報科学振興財団

報告書

織井理咲

University of Washington
Paul G. Allen School of Computer Science & Engineering

2024 年 6 月

University of Washington Paul G. Allen School of Computer Science & Engineering の博士課程の 3 年目が終了しました。今年の半年間の振り返りについて書きます。

I. フィールドワーク@ ケニア

秋学期から Global Health の教授との共同研究で、ケニアの若い女性に避妊法の選択をサポートするための、薬局で使われるモバイルアプリの開発に取り組んでいます。アプリの初期プロトタイプを完成することができたので 4 月にケニアのキスムにてフィールドワーク調査を行いました。フィールドワーク先では現地の共同研究者と若い女性（15 歳–24 歳）と薬剤師とのワークショップを 3 回実施しました。若い女性とのワークショップでは避妊に対する懸念や悩み、薬剤師とのカウンセリング経験、薬剤師とのカウンセリングにおける悩みなどをディスカッションしてからアプリを紹介しました。アプリの使いやすさ、コンテンツ、見た目に関するフィードバックを収集し、次のワークショップに向けてフィードバックに基づいたアプリの更新に取り組んでいました。

現地訪問することで数値だけでは理解できない現実を知ることができました。現地の環境、薬局の状態、人間関係などを目で見ること、現地の人の話を聞くことで以前よりもケニアの若い女性の避妊の現実を知ることができました。数値だけでは理解できないことがたくさんあるのだと感じました。

フィールドワーク直前に数日間マサイマラサファリを体験しました。これまでの人生における最高の経験の一つと言えるほどのものでした。ライオンがヌーを食べているのを

発見し、約10メートル離れた場所からじっくり見ることができました。最終日はオスの像を5頭見つけ、ドライバーに近くまで連れてもらい、1時間ぐらい像が草を食べている様子を観察することができました。また、マサイ族の村に訪問し、家の作り方、火の起こし方を教えてもらいました。有名な素晴らしいジャンプも歓迎ダンスの際に披露してくれました。



II. 学会

5月にハワイでCHI（HCIの分野の国際的なトップカンファレンス）が行われ、採択された論文を発表するために参加しました。私の研究分野の最大規模の学会で、世界中から3200人ほどの人が集まっていました。

今回発表した論文は2年前のマラウイでのフィールドワークに関する研究です。HIVクリニックで使われているパソコンやタブレットを活用したヘルスケアに対するエイズ患者の観点について発表しました。やっとフィールドワークの結果がパブリッシュされ、一つの目標をクリアすることができました。また、Best Paper Honorable Mention（論文のトップ10%）をいただくことができ、発展途上国関連の研究の価値が認められた気がします（CHIのほとんどの論文はアメリカやその他先進国で行われる研究に関するものです）。論文はこちらからアクセスできます：

<https://dl.acm.org/doi/10.1145/3613904.3642245>

III. TA (ティーチング・アシスタント) 経験

卒業後の進路としてアカデミアに興味があるのでティーチングとメンタリングの経験を積みたいと思い、TAに挑戦してみました。冬学期は学部生向けの Human Computer Interaction の授業を TA 他 3 人と担当しました。チームプロジェクトを企画・実施する授業です。私は 7 つのチーム (1 チーム 4 人) を管理しました。初めての TA 経験が自分の専門分野の授業でしたのであまり緊張せずにメンタリングができたと思います。指導教授による授業に週 2 回参加するに加え、毎週 quiz section を開催し、授業内容と復習とチームプロジェクトの指導をリードしました。春学期は私の指導教官が教える学部生向けの Computing for Global Health を TA しました。これもチームプロジェクト中心の授業で、かつ自分の専門分野であるため、TA しやすい授業でした。春学期は学会やフィールドワークで忙しかったのであまり TA の作業に集中することができませんでしたが、二つの TA 経験を通して学部生の授業のティーチングとメンタリングが楽しいと気付いたので、今後も積極的にこれらの機会を求めていこうと思います。

IV. 最後に

3 年間船井財団にご支援をいただき、深く感謝しています。7 月末の交流会で奨学生と卒業生にお会いできるのを楽しみにしています。